



☆会長あいさつ☆

2月3日は節分。恵方巻を食べ、豆まきをし、福を呼び込めたでしょうか。

先月の1月31日に、新入学説明会が行われました。生徒会執行部による学校紹介もすばらしく、とても分かりやすい説明だったと思います。先生方や生徒会長からのお話を聞きながら、不安と期待でいっぱいの子供たちの姿を見て、新鮮でフレッシュな気持ちになりました。

暦の上では立春を過ぎ、季節は春へ近づいていますが、まだまだ冬・・・、寒い日が続いています。今年はインフルエンザの流行だけではなく、新型コロナウイルスが世界的に感染拡大しています。報道等でもありますように、正しい情報を収集し、各自体調管理には十分気を付けて、この冬を乗りきりましょう。

☆校長先生のお話☆

3年生が入試を控える状況の中、インフルエンザ・新型コロナウイルスと健康面で憂慮されるべき状況が続いていることに困惑しております。マスクも手に入らない状況の中で、どうすれば自分の健康管理ができるのか難しいところではありますが、無事受験ができることを心より願っております。

PTAの方々におかれましては、お忙しい中、1月17日の炊き出しにご協力いただきありがとうございました。25年前の状況が蘇った1日でした。立春が過ぎ、春の足音が聞こえてくる季節になりました。4月に子どもたちがよいスタートが切れるよう、サポートしていただけたらと思います。よろしく申し上げます。

☆主な行事予定☆



2/26 (水) ~28 (金) 学年末考査

3/4 (水) 三送会

3/10 (火) 卒業証書授与式

3/12 (木) 公立一般入試

3/19 (木) 公立一般合格発表

3/25 (水) 修了式

☆各学年の様子☆

1年生

1月29日(水)の5,6校時に性教育デリバリー授業を行いました。「いのちのはなし」を聞いたり、赤ちゃん人形の抱っこ体験やお腹にさらしを巻いて妊婦体験をしたりしました。14日にはコミュニケーション授業の3回目がありました。21日には福祉体験学習「チャレンジ学習・80歳の世界を知ろう!」を行う予定です。

2年生

トライやる・ウィーク全体発表会に来てくださった保護者の方々、ありがとうございます。一人一人の個性があふれる発表や掲示物、時間をかけて作成したスライド資料での発表など、トライやる・ウィークのよい締めくくりとなりました。2月から総合学習の時間を使い、進路学習を行っていきます。1年後に自分の進路が定められますように、ご家庭での協力をよろしくお願いいたします。

3年生

3年生にとって、最も大切な受験が始まりました。この日のために3年間、学習・部活動・学校生活・行事など様々なことに一生懸命取り組み、常にいろいろな場面で自分を高めてきたと言っても過言ではありません。今までに培ってきた自分の力を信じて頑張れるよう、保護者の皆様や地域の皆様に応援していただければと思います。3年生が有終の美が飾れますようあと少しですが、応援ご指導のほどよろしくお願いいたします。

専門部からの報告

- 【愛護部】
- ・1月23日のふれあい懇話会推進会議、1月31日の第3回ふれあい懇話会に出席しました。
 - ・あいさつ運動は、今年度、次回3月2日(月)が最後となります。ご協力をよろしくお願いいたします。
- 【文化部】
- ・1月17日(金) 震災メモリアルの豚汁作りに多数ご参加いただきありがとうございました。「美味しい!」と大好評でした。
- ☆「制服等リユース」についてのお願い
- リユース品の在庫が大変少なくなっております。随時、受付BOXを玄関に設置しています。ご協力をよろしくお願いいたします。
- 【全学年】
- ・3学期も花一輪運動を実施しております。当日参加も受付けておりますので、ご希望の方は当日10:00にPTA室にお越しください。

◆◆◆新2・3年生学年委員選出について◆◆◆

- ※ 2月下旬に抽選除外の対象となる方の申請書類を配布します。
- ※ 学年委員の決定(生徒によるくじ引き)・・・3月17日(火)
- ※ 各委員長決定・・・4月11日(土)

校長の独り言

「親への感謝」

校長 堀口和則

私の両親はもう他界してしまっていますが、「一番親に感謝していることは何？」ともし聞かれたら、迷わず「我慢することを教えられたこと。」と答えるでしょう。

今から思えばそれほど貧しい家ではなかったのかもしれませんが、幼い頃はほとんど贅沢な思いはさせてもらえませんでした。例えば、三ノ宮へ家族と出かけても、昼食はあらかじめパン屋さんで買った菓子パンで安くすませるか、百貨店の大食堂で一番安価なカレーライスかホットケーキしか注文させてもらえませんでした。大食堂に入ったら有無を言わず「どっちにするの？カレー？ホットケーキ？」という具合だったのです。たった一度だけレストランでハンバーグステーキを食べさせてもらったのですが、未だにその店があった場所を覚えているぐらい私にとっては感激した出来事だったのです。普段着る服も私には姉が2人いるのですが、スカートこそはかされることはなかったものの、男が着ても不自然でないものをお下がりとして着せられたり、同じような年頃の子供を持つ母の友達からいただいた服をお下がりでもらって着せられたりしていました。今でも、お店で買ってもらった服は「あの服とあの服」と思い出せるぐらいなのです。

そのような環境で育てられたので、働きだして自分のお金で生活するようになって、贅沢な生活ができなくても、あまり不満に思ったことはありません。未だに外食をするときは、安価なメニューを注文する癖が抜けないし、車も決して高級な車に乗りたいなどと思ったことはなく、動きさえすればいいと思っています。大好きなお酒を飲みに行くときも、「赤ちょうちん」か「立ち飲み屋」で十分なのです。贅沢な暮らしができなくても、幸福感を感じることができる自分が今あるのは、両親のお蔭と本当に感謝しています。

「校長先生はビール党ですか？日本酒党ですか？」とよく聞かれるのですが、私は即座にこう答えます。

「発泡酒党で〜す。」



●試験問題を作るということ

いま大学では年4回試験があり、そのたびに試験問題を作っていますが、90分×7回の授業の中で扱った、どの内容を出題するか、どの受講生にも公平な内容になっているか、いつも頭を悩ませます。

30年ほど前に、ある全国規模の試験に関わったことがありました。「次の文を読んで、あとの問いに答えなさい」で始まる試験問題では、国語以外は自分でリード文を作ります。決められた字数の中で、受験生が読んで学びになり、5問程度の出題ができる内容を含まないとなりません。この両者を両立させるのは至難の業で、はじめの数ヶ月は、作っても作っても一緒に作成作業に携わるメンバーから、「日本語になっていない」「何を言ってるのか不明」「受験生の学習範囲を越えている」など、容赦のない批判にあい、自己がズタズタになることもしばしばありました。一つの単語、一つの句読点も無駄にできず、文と文の接続関係は明確にしないとならず、日本語で文章を書くことの基礎を徹底的に学ばされた2年間でした。たった1問の問題を作るにも、これほどの労力と時間がかかることを思い知りました。



●受験生に力を発揮してもらおう

試験では学校の授業で学んだことをいかに発揮してもらうかが基本ですので、珍問、奇問、ひっかけ問題は排除され、受験生目線で作問されます。世間では、入試問題は落とすために作問しているという誤解もありますが、多くの問題はそうではないと思います。むしろ、問題を通して、これは知っていてほしいこと、これは筋道だてて考えてほしいことといったメッセージを受験生に投げかけています。このメッセージがわかると、問題も解きやすくなるかもしれません。つまり、問題を解くことは、作問者との対話なのです。

●最後まで力をつく

このたよりがお手元に届く頃には、私学や公立推薦の入試が終わっていると思いますが、まだ試験がある方は試験の直前まで力がつくことを知ってください。すでに受験した方なら、どの問題が解けなかったか記憶にあるはずですので、まずはそこを徹底的に教科書で復習してください。そして、公立入試までの1ヶ月弱、これからは過去問を、何も見ないで制限時間通りに解き、誤答中心に復習し、次同じ問題が出たら絶対解ける状態にしてください。わからない問題や誤答があると、自信がなくなるかもしれませんが、心理学的にもわからないことをわかるようにすることこそが、一番力がつく学習法とされます。試験会場で直前に見たノートの内容が出ることもあるのです。気合いや根性は不要です。ただただあきらめずにやるだけです。健闘を祈ります。

本日以降、2月20日(木)、3月6日(金)、10日(火)午後、16日(月)に相談をお受けします。お電話の事前予約は田邊教頭(078-791-8444)に、当日予約はS C (090-8379-3709)に、[メールは事前](mailto:nishiochiai_sc@yahoo.co.jp)、[当日予約とも nishiochiai_sc@yahoo.co.jp \(QRコード\)](mailto:nishiochiai_sc@yahoo.co.jp) へお願いします。

